歴史と哲学の県立熊谷図書館 =資料案内=

Lib. Letter

2007 Spring 〔3～5月〕季刊

平成１９年３月１日 通巻 第８号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

http://www.lib.pref.saitama.jp/ Tel 048-523-6291

情報満載

『新聞』を楽しむ

— たとえば明治のニュースを読む —

皆様が日ごろお読みになる新聞は、おそらく日刊のものが多いかと思いますが、熊谷図書館では、他にもいろいろな形態の新聞を所蔵しています。また、新聞記事を探すための資料もありますので、これを機会にどうぞご利用ください。

◇新聞あれこれ

・原版 （3階資料室）

もっともよく目にするタイプの新聞です。日刊のものや週刊のものがあります。日刊には、ご存知のとおり、朝刊と夕刊が発行される新聞もあります。『朝日新聞』『毎日新聞』『読売新聞』のような一般紙だけでなく、『図書新聞』のような業界紙、『The New York Times』のような外国の新聞もあります。

・縮刷版 （3階資料室）

原版を縮小したサイズで、通常1ヶ月ごとに製本されています。1か月ごとに目次や索引が付いていますので、記事の探索に便利です。ただし、地方版は東京版となりますので、埼玉版の記事を読むことはできません。

＊ 埼玉版は、年代によっては、原版を切り取って製本したものや、マイクロ・フィルムで見られるものもありますので、職員にご相談ください。

・復刻版 （3階資料室）

昔の新聞を復刻したもので、本の形態をしています。『萬朝報』（黒岩涙香創刊）、『国民新聞』（徳富蘇峰創刊）、『朝野新聞』（成島柳北・末広鉄腸主筆）、『滑稽新聞』（宮武外骨創刊）など、明治・大正期の特徴ある面白い新聞がたくさんあります。また、すぐれた挿絵や風刺漫画、広告なども楽しめます。

・マイクロ・フィルム （3階資料室）

新聞をマイクロ・フィルムに焼き付けたものです。専用の機器で画面に映してご覧いただきます。当館で最も古いものは、明治 21 年 7 月の朝日新聞です。ただし、元版の劣化等により見づらい場合もあります。

＊ 申し訳ありませんが、機器老朽化のため当館では、プリントできません。プリントが必要な場合は、職員にご相談ください。

・参考図書 （2階資料室）

新聞記事を調べるための事典類も、いろいろあります。特定の記事を探す場合、たいへん便利です。

『明治ニュース事典』（請求記号：R210.6/メ）；『大正ニュース事典』（R210.69/タ）；『昭和ニュース事典』（R210.7/シ）；『新聞集成明治編年史』（R210.6/シ）；『新聞集成大正編年史』（R210.69/シ）；『新聞集成昭和編年史』（R210.7/シ）；『新聞集録大正史』（R210.69/シ）；『新聞復刻版昭和史　上下』（書庫 D210.7/シ）

◇明治時代の新聞を読む

ところで、皆さんは、藤村操という人物をご存知でしょうか。明治 36 年 5 月、削った大樹の幹に「巌頭の感」を墨書し、華厳の滝に飛び込んだ一高生です。彼の専攻は哲学でしたが、英語を教えていたのは、かの夏目漱石でした。そして、自分が叱責した直後に藤村が自殺したことから、漱石は神経を病みます。

「悠々たる哉天壌　遼々たる哉古今」という言葉から始まる哲学的な遺書が話題となり、当時は各紙を賑わしました。また、「巌頭の感」は、明治・大正・昭和を通じ、長く若者の心をとらえ、広く人々に諳（そら）んじられました。

関係記事の見出しを『明治ニュース事典』から、拾ってみましょう。

「巌頭の感」を残し華厳の滝で自殺 （明治 36 年 5 月 27 日　報知新聞）

友人や旅宿に取材し、彼の自殺前の様子などを事細かに報じています。当日の朝、「ビール少許（すこしばかり）を呑み、鶏卵を食した」ことまでわかります。

少年哲学者を弔す―黒岩涙香 （明治 36 年 5 月 27 日　萬朝報）

「我が国に哲学者なし、この少年に於いて初めて哲学者を見る」と彼を絶賛し、その死を悼んでいます。

藤村の挙をまね、華厳の滝入水が流行 （明治 36 年 7 月 4 日　東京日日新聞）

後を追う者が続出しましたが、この記事では、早稲田大学生の華厳の滝投身を報じています。

投身死体が浮かび上がる （明治 36 年 7 月 5 日　読売）

彼の遺体は、奇しくもその早稲田大学生の遺体捜索中に、滝壺に浮かび上がりました。

自殺の真相は菊池文相の令嬢に失恋 （明治 36 年 7 月 9 日　東奥日報）

彼の死の真相は、高邁な哲学観に打たれたためではなく、彼の恋する令嬢が、美濃部達吉に嫁いだためと報じています。

また、『滑稽新聞』は、〈新聞〉という名ではあるものの、実質は月2回発行の雑誌ですが、明治 36 年 7 月 20 日発行の第 53 号では、「失恋奴藤村操」と題して、彼を持ち上げた黒岩涙香をも極めて辛辣に批判しています。

新聞社によって報道の姿勢が異なるのは、いつの世も同じですが、それにしても明治の新聞は、旗幟鮮明です。そして、その時代を知らない者にも、気骨ある明治の香りを伝えてくれるようです。

「巌頭の感」

藤村　操

悠々たる哉天壌。遼々たる哉古今。五尺の小軀を以て此大をはからむとす。ホレーショの哲学竟に何等のオーソリチーを価するものぞ。万有の真相は唯一言にして悉す。曰く「不可解」。我この恨を懐いて煩悶終に死を決するに至る。既に巌頭に立つに及んで、胸中何等の不安あるなし。始めて知る、大なる悲観は大なる楽観に一致するを。

（『現代日本記録全集　16』より）

挿画は『滑稽新聞　第53号』より転載

新着資料案内

最近図書館に入った新しい資料をご紹介します。どうぞご利用ください。

＊（　）内が、資料の請求記号です。書架にない場合は、リクエストしてください。

◇ 日本語図書

『ネットvs.リアルの衝突』 佐々木俊尚　文藝春秋　2006.12　(007.3／ネツ)

『悪と暴力の倫理学』 熊野純彦，麻生博之編　ナカニシヤ出版　2006.12　(158.04/アク)

『知の分類史』 久我勝利　中央公論新社　2007.1　(116.5/チノ)

『大江戸調査網』 栗原智久　講談社　2007.1　(210.5/オオ)

『ミカドの外交儀礼　明治天皇の時代』 中山和芳　朝日新聞社　2007.1　(210.6/ミカ)

『江戸時代のロビンソン　七つの漂流譚』 岩尾龍太郎　弦書房　2006.11　(290.92/エト)

◇ 外国語図書

『. . . trotzdem ja zum Leben sagen
Ein Psychologe erlebt das Konzentrationslager』 Frankl Victor E./著
Mu¨nchen, Deutscher Taschenbuch Verlag, 2006 (946Fr)

＊ ドイツ語版　日本語訳書名：夜と霧　ドイツ強制収容所の体験記録

『해변의 카프카 上下』 村上春樹/著 김춘미訳 서울 문학사상사 2003 (913.6Muh)

＊ 『海辺のカフカ』の韓国・朝鮮語版

◇ **視聴覚資料(CD)**

『神秘の音楽:天才ダ・ヴィンチの生涯』

ドゥルス・メモワール ドニ・レザン・ダドル指揮 キングレコード 2006 (170/ｼ)

『序曲集／ドヴォルザーク』

ロンドン交響楽団 DECCA MUSIC GROUP 2006 (120/ﾄﾞ)

図書館の言葉

「司書」って何する人？

「司書」=「利用者と資料・情報をつなぐ人」

皆さんは、〈司書〉という言葉を聞いたことがありますか？ そう、図書館で働く私たち職員のことですね。埼玉県立図書館では、総務担当を除き、カウンターに立つ職員全員が、〈司書〉の資格を持っています。

〈司書〉は、図書館法第4条に、「図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。…司書は、図書館の専門的事務に従事する」と規定されています。

「カウンターで本の貸出・返却をするだけなのに、専門的な知識がいるの？」とお思いでしょうか。でも、貸出・返却だけじゃないんです。

では、この司書の専門知識とはどんなものなのか、資格を取るための授業科目をちょっと覗いてみましょう。「生涯学習概論」「図書館経営論」「情報サービス概説」「レファレンスサービス演習」「情報検索演習」「専門資料論」「資料組織概説」「資料組織演習」「児童サービス論」等が必修科目で、更に「コミュニケーション論」や「情報機器論」等の選択科目があります。

つまり、私たちは、資料を選んだり、情報を探索したりするプロなのです。図書館を利用される一人でも多くの方に、要求にぴったりの資料・情報を手渡したいと、常に考えています。「探している本が見つからない」「どの本を見たらいいのかわからない」こんな時には、私たち司書を資料や情報を探索するための道具の一つだと思って、遠慮なくお使いください。それによって、私たちも更に研鑽を積ませていただきます。なお、未熟な点は、今後努力いたしますので、どうぞご寛恕ください。

＊ 公立図書館では、設置している自治体ごとに採用制度が異なりますので、必ずしもすべての図書館のカウンターに立つ職員が〈司書〉とは限りません。